

令和7年度第1回柏市農業振興審議会会議録

1 開催日時

令和7年8月8日（金）午後2時00分～午後3時00分

2 開催場所

柏市柏5丁目10番地1 分室3第4会議室

3 出席者

(1) 委員

染谷会長，染谷副会長，増田委員，程田委員，榎委員，湯浅委員，成嶋委員，鹿倉委員，小池委員

(2) 事務局

農政課 込山部長，中村課長，古関主幹，栗原主査，山田主任

4 議題

(1) 柏市都市農業振興計画計画について

(2) その他

5 議事

(1) 柏市都市農業振興計画計画について

事務局より配布資料に基づき，前回計画案から今回配付した計画素案への変更点や評価指標案について説明を行った。

（染谷会長）

資料のボリュームも多く，質疑も難しいかと思われる。感想でもよいので，何かあればいただきたい。

（程田委員）

指標について，共済加入件数が令和2年から6年で減っているようだが，なぜ減っているのか。

（事務局）

生産者が減っていることも考えられるが，令和元年の台風

の被害があったことが影響している聞いている。集計の仕方の変更があったことも影響していると考えられる。

(染谷会長)

共済は作物ごとに入るため、複数の作物で加入していたかもしれない。現在は、収入保険への加入が多く、作物別ではなく「くくり」で入るものもある。そのあたりの事情が関わっているのではないか。

(事務局)

そのようなことであればダブルカウントもあったかもしれない。分析していきたい。

(小池委員)

資料 7 ページ、認定農業者数について、令和 6 年度末の実績値と、令和 7 年度時点での目標値と実績値に大きく乖離がある。どのような根拠で設定しているのか。

(事務局)

1 年で 20 人増というイメージで設定したもの。認定が 5 年で更新になるが、更新しない人も出てきている。新規認定だけでなく、更新も増やしていかないといけない。補助金の要件にもなっている場合があるので、将来的に補助金をとりたいとなれば、認定をされた方がよい。

(小池委員)

認定農業者の更新をしない主な理由は何か。

(事務局)

農業自体をやめてしまうこともあるが、事務手続きの煩雑さもある。また、現状維持で良いと考える農業者が多く、特段補助金を求めないということもある。

(程田委員)

柏市の農業者うち、認定農業者の割合はどのくらいか？

(事務局)

認定農業者は個人でも家族でも 1 件と数える。全農家戸数を分母とすれば 2 割行かない程度である。

(榎委員)

柏市の実情を踏まえて柱を設定したということなど前回と

の変更についても承知した。新設の指標の生産性向上に寄与する機械・施設の導入件数の部分については、スマート農業に限らず省力化の機械もあると考えてよいのか。

(事務局)

生産性向上に関する機械・施設はすべて含むものとする。

(榎委員)

新たな品目やブランド化については芽が出ているような状況なのか。

(事務局)

検討段階などの相談は受けている状況である。

(湯浅委員)

新規就農者を増やすのはどのようなメリットがあるのか。

(事務局)

市として新規就農者をむやみに増やしていく考えはなく、着実に長期継続してくれる人を増やしていきたいと考えている。継続することで担い手不足の解決につながられる。短期間で離農してしまうと、畑が荒れるようなことにもなるため、長期で続けられる人を育てたい。

(湯浅委員)

担い手ということであれば、新規就農者よりも農家の後継者（家族）にも補助を十分に行ってほしい。

(事務局)

国でも後継者についての制度があり、市としても後継者は、重要と考えている。

(成嶋委員)

認定農業者について、補助金取得の時に有利だから取っておいた方がいいという話だったが、若い自分でも手続きが面倒であり時間がかかる。もっと認定農業者になるメリットがあったり、手続きのサポートなどで楽になると良い。スマート農業も入れたら生産性が上がると思うが、小規模だと維持費がかさみコストに見合わない。

(事務局)

御意見として承る。

(鹿倉委員)

立派な計画にしてください。資料3の5ページ。農業機械の購入支援やリースについて、支援対象は大規模に限った支援であるということか。

(事務局)

支援対象はすべての方が対象となっている。大規模農業者がイメージしやすいとは考えられるが、中小規模の生産者を切り捨てるということはない

(鹿倉委員)

規模に関わらず、使う機械は同じ。農家1軒ごとに購入するのではなく、共同購入やリースなどコスト削減できないか考えている。支援が広がっていくと良い。

柏産農産物の付加価値向上について、ブランド化を推進するのは個人のものではなく「柏産」としてPRするものか。

(事務局)

「柏産」としてPRしていくことで個人にもつながることを想定している。

(鹿倉委員)

県の統一の規格で出荷をすると、これまで箱代が100円だったのが80円台に落ち着いてコストダウンになった。県統一になるため、ブランドを統一することで宣伝効果も期待できる。そのためには品質の良いものを絶えず作っていかないといけない。苗木を共同で購入するなど、品質を安定して生産できる環境、品種などの選定も県レベルで取り組むといった発想もあってよいのではないか。

(染谷副会長)

スマート農業機械について、自分は20aくらいの畑でやっているが、自分のような規模では使わないと思う。大規模生産者がメインとなる。現状でも朝にうるさいという苦情が来たりする。米など大規模の生産を伸ばしていくというのには効果的だと考える。

認定農業者についても、私は早いうちから取ったため、補助金があり助かったが、年齢があがると現状維持が精一杯で、

次の更新はやめてしまうところも出てくると思う。基準など
和らげていっても良いのではないか。

(染谷会長)

市街化区域では機械や農薬の問題があり，農業をやること
が大変。使う方も気を遣う。都市農業として市民の理解をも
っと進めていかないと，市街化区域で農業ができなくなる。
市民にアピールして理解してもらおうよう，計画素案には反映
されているが，行政がどれだけ力を入れてくれるか。市街化
区域のカブはとくに守っていかなければならない。

キーワードの農地・人・所得について，農業委員会は昔
「農地委員会」だった。農地のことばかり話していたが，だ
んだん人や所得の話も入ってきた。お金よりも前に，自分が
農業をやって，食料の生産に貢献できているという意義の達
成の後に，所得がついて来るのではないか。所得の前にやる
意義を持たせるのも大事だと考える。お金も大事だが，若い
人に夢をもたせることも，やりがいも大事になる。

(増田委員)

農業者の生の声を聴かせていただいて良かった。

(染谷会長)

別紙にて意見提出も受け付ける。

今後の予定として，パブリックコメントを実施するとのこ
とであるが，委員からの意見などを踏まえた修正については，
事務局と会長の間で行うことでよいか。

⇒ (全委員) 異議なし

(2) その他

特に意見なし

6 傍聴

傍聴者 2名